



大阪市教育局教育長 多田 勝哉 様

令和6年(2024年)8月 9日

大阪市教育局教職員退職者会 会長 川島 一郎

児童・生徒を学校行事として万博見学させることへの要望

日ごろは大阪市の教育行政推進のためにご尽力いただき敬意を表します。

さて、私たちは2025大阪・関西万博での「無料招待事業」による学校行事として児童・生徒を参加させることに大変心配しています。全ての学校行事は、児童・生徒が安全で安心して参加できるよう綿密な計画のもと実施されることが重要です。

万博会場となる夢洲は現在工事が進められていますが、市民が心配する事故や工事の遅れ、交通機関の不備やいまだ不明な展示内容等々問題が山積しています。

これらの問題は児童・生徒を引率する教職員の努力で解決できるものではなく、現状では学校行事として実施するには不安要素があまりにも多いと言わざるを得ません。

「参加意向調査」の対象となった学校園は大変悩んで回答したと思います。「参加希望」「検討中」と報告したが、会場の安全性、交通機関確保、見学内容や施設の全容等が不明で安心して活動できるのか、さらに通常学校行事なら行われる教職員による下見がまともにできるのかも心配です。また、今後指定される見学時期によっては従来の学校行事の変更を迫られることになりかねません。

大阪市のホームページでは「会期中の安全対策(メタンガス等)について」が掲載されています。そこには、会場となる夢洲が一般廃棄物・上下水道汚泥等の埋め立て地でありメタンガス、一酸化炭素、硫化水素等の有毒ガス発生が記載され、その「対策」が示されています。その中で強制換気などの対策に加え、「博覧会協会がHPにて測定値を毎日お知らせすることを検討」と記載され万全であるかのように公表されています。しかし有毒ガスは現在も開催中も発生し続け、見学者にとって安全とは言えません。さらに「大屋根」への落雷の危険性が高いことを万博協会自らが認めています。

避難場所や経路の情報もない中、万博協会が想定する見学者1日平均15.5万人の混雑の中で事故が発生した場合、児童・生徒の引率、誘導は困難を極めます。

万博は今深刻な事態を迎えていると言わざるを得ません。博覧会協会から発信される情報が極めて乏しい中で、各校の見学計画立案は大変難しく、教職員の大きな負担となることは間違いありません。

以上のような理由から、大阪市・大阪市教育局教育委員会に対し下記のことを求めます。

記

1. 万博への学校行事としての参加については、各学校が見学の安全性を第一に不参加を含めて検討できるようにしてください。そのために、学校・保護者が求める全ての情報を公開してください。
2. 児童・生徒の生命・健康に関わる危険性が高まる場合には、学校の判断を待つまでもなく速やかに大阪市・大阪市教育局教育委員会として全校に対し万博見学中止するよう指示してください。

以上